

国際文化観光都市 70 周年記念

登録記念物 嫁ヶ島 ——若槻禮次郎が愛した島——



昭和 26 年(1951)3 月に「松江国際文化観光都市建設法」が公布され、松江市が国際文化観光都市となって 70 年になります。「松江国際文化観光都市建設法」の国会での法案趣旨説明では、小泉八雲が嫁ヶ島を含めた松江の美しさを世界に知らせたことを強調し、制定に至りました。また、去る 3 月 26 日には、嫁ヶ島が国の登録記念物（名勝地関係）に登録されました。

現在の嫁ヶ島には 27 本の松が生育しています。しかし、昭和初期までは数本しか生えていませんでした。昭和 10 年(1935)、松江出身の総理大臣である若槻禮次郎が松の植樹を勧め、現在の姿になったのです。禮次郎は嫁ヶ島を愛し、島に関する漢詩を詠じています。

本展は松江国際文化観光都市建設法制定 70 周年と嫁ヶ島の登録記念物への登録を記念し、若槻禮次郎と嫁ヶ島の松の植樹時期について紹介します。



明治 40 年(1903)頃 松が数本見える



昭和 14 年(1939)頃 島居周辺に植栽支柱が見える

昭和10年4月1日から6日、若槻禮次郎は松江市の床几山に建立された寿像除幕式に参列するため、帰松した。2日には、宿泊先の皆美館から嫁ケ島に渡り松を植樹した後、宍道湖畔にあった料亭魚一で休憩を取った。



「かもめ」号に乗り、嫁ケ島に渡る



中央左寄りが禮次郎夫妻



松を植樹する禮次郎、後ろは石倉俊寛松江市長



嫁ケ島での小宴

松の植樹経緯を記した色紙

禮次郎の没後（昭和25年頃）、料亭魚一の主人であった吉村よしのが若槻家に贈った色紙。表面には植樹の際に禮次郎が詠んだ漢詩をよしのが書く。裏面にはその際の思い出を記す。

植樹後、禮次郎の「嫁ケ島には婿さんがない」という言葉をよしのの父一はじめが応え、昭和11年(1936)に松江市島根町多古の松を植樹したことがわかる。

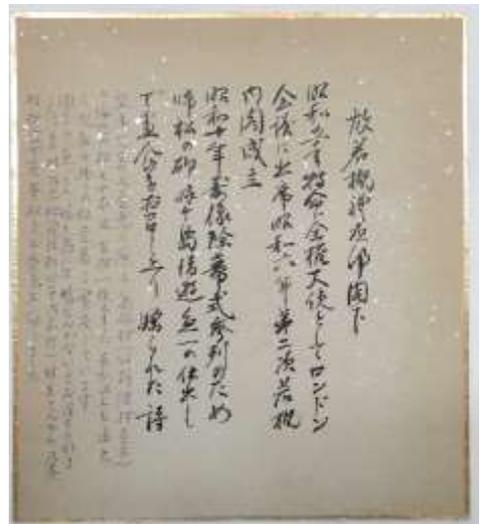
嫁ケ島詩（若槻禮次郎作、吉村よしの書）

松江歴史館蔵（若槻家旧蔵）



色紙表

（色紙裏の後半文章）
 翌年（昭和十一年）先生の御発意に於て、島根村（旧野波村多古）の浜辺の松七十本、父吉村一植えました。半分以上も流出し現在は残りの松定着し繁茂しています。閣下の魚一さん嫁ケ島には婿さんがないとおほせられました。その時乃木村（現在松江市乃木町）神主さんやら乃木村会ギ員等招きお祭を主催しました。



色紙裏

欲添藍影翠雨濃
 数樹手栽聽午鐘
 懇囑鄉童能愛護
 嫁洲精是在青松
 録若槻克堂先生嫁ケ島詩

よしのの揮書